

和歌山病院での実習を終えて



西松 謙一

まず今回の実習を通して協力してくださった患者の皆様、そして南方先生を初めとする国立病院機構和歌山病院の皆様方本当にありがとうございました。1年生の **Early Exposure** でもお世話になった和歌山病院で再び学ぶことができ、幸せでした。

今回の実習ではレントゲンの読影や結核に関して多角的に学ぶことができましたが、一番印象に残っているのが南方先生の「良い医師になれ」というお言葉です。単純な暗記ではなく、なぜそうなるのか？という疑問を常に持つようにしておかなければならない、その疑問に対して簡単に答えを調べるのではなく徹底的に考え抜くことの重要性を教えて頂きました。

和歌山病院での実習を終えてから和歌山県立医科大学附属病院で実習をしていますがこの経験が今の病院実習に活かしていると思います。画像所見、身体所見、検査値などそこに現れてくるデータ一つ一つに理由があります。暗記だけだと思っていたものに対して理由を追究していく姿勢を持ち続けることは大変ですが、その分大変やりがいがあります。以前より資料や本を読む機会が増えましたし、担当の先生にも疑問をぶつけることや自分の考えを聞いてもらいアドバイスをいただくような機会も積極的に作っていただけるようになりました。

良い医療人としてあらゆる患者に貢献していくためにこれから頑張っていきたいと思っています。また機会があれば和歌山病院で勉強させていただきたいと考えていますのでよろしく願いいたします。ありがとうございました。